A07 手稲山におけるクロバエ類2種の動態

佐々木 均 (酪農学園大・昆虫)

Seasonal prevalence of *Calliphora nigribarbis* and *C. vomitria* at Mt. Teine in Hokkaido

SASAKI Hitoshi

札幌市の西に位置する手稲山において、1995年と96年の無積雪期に、馬肉100gを誘引源とする予研式バケツトラップを、標高30m、200m、400m、600m、1000mの6地点に設置してクロバエ類の捕獲調査を行った。捕獲されたクロバエ類の回収をおおむね2週間に1回行い、同時に誘引源の馬肉を新鮮なものと交換し、交換した古い馬肉は研究室に持ち帰った。

その結果、オオクロバエ♂が333、2047個体、♀が217、2328個体、ミヤマクロバエ♂が104、1086個体、♀が372、2587個体の合計1026、8048個体（それぞれ'95、'96の順）を得たが、標高によって捕獲消長に違いがみられ、手稲山においても、オオクロバエとミヤマクロバエの2種クロバエ類が、本州以南各地で報告されている夏期における高所への上昇移動と、秋期における低所への降下移動の傾向が認められ、北海道においても季節的垂直移動が行われていることが明らかとなった。また、両種とも、秋期にいわゆるメス優占出現現象が見られた。さらに、それら捕獲されたクロバエ類2種の翅の破損度、メス個体の交尾の有無、卵胞発育度を、標高別に回収日ごとに調べたところ、交尾率、卵胞発育度の点から年二化性の可能性が認められた。なお、両年で捕獲個体数に大きな違いが出たが、その原因は不明である。

A08 センチクバエの休眠および非休眠系統間に見られる生理的相違森林敦子[○]、林 利彦、倉橋 弘、主藤千枝子、安居院宣昭

(国立感染研、昆虫医科学部)

Physiological difference between diapausing and non-diapausing strains of *Boettcherisca peregrina*

Moribayashi, T. Hayashi, H. Kurahashi, C. Shudou and N. Agui

北半球に生息しているセンチクバエは東南アジアの熱帯地方から亜熱帯、温帯地方に蛹休眠性を獲得し越冬可能となり分布域を拡げて来ているとされている。熱帯地方から得られた非休眠系統と休眠性を獲得した休眠系統のセンチクバエの生理的特性、相違点について日長と休眠性、囲蛹殻形成時間とエクジソンホルモン分泌の特徴、JHホルモンの分泌、幼虫から蛹、成虫への生育可能な限界温度等から休眠の特性について検討した。実験に使用したものは非休眠系統 Bp(NC), Bp(Luwuk), Bp(forest), 休眠系統の Bp(Tokyo)で、それぞれニューカレドニア、インドネシア、スリランカ、東京由来のものである。その結果蛹休眠機構を獲得することは一定の低温下での耐性とエクジソンホルモンの分泌に関与する脳の役割に大きな特性があると考えられた。